

事務事業名	まちづくり推進事業				担当	総合政策部プロジェクト推進課複合交流拠点整備				
政策名	3	「にぎわいづくり」～まちの活力アップ!～				☐ 総重（総合計画重点事業）	☐ 総新 ^係 （総合計画新規事業）			
施策名	2	商業の振興				☐ 戦拡（総合戦略拡充事業）	☐ 戦新（総合戦略新規事業）			
関連個別計画	真岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略				事業期間	☒ 単年度のみ				
法令根拠						☐ 毎年度実施（開始年度年度～）				
予算科目	1.一般会計	2.総務費	1.総務管理費	7.企画費		☐ 期間限定複数年度（年度～年度）				
予算科目										
予算科目										
事業概要	官民連携、市民協働の取り組みである、真岡まちづくりプロジェクト「まちをつくろう」（通称まちつく）によって、中心市街地の活性化を図るとともに、若い世代を中心に、すべての人が真岡に住みたい、真岡で働きたい、真岡で子育てしたいと思えるまちの実現を図る。 令和3年度から、宇都宮大学地域デザイン科学部との共同研究事業として、まちづくりプロジェクトを開始し、令和3年度から令和5年度まで99名の高校生、大学生、大人が、中心市街地の活性化を図る企画提案と、実際に社会実験を行い、令和4年度のグッドデザイン賞、全国地域づくり推進協議会長賞、令和5年度には地域再生大賞優秀賞を受賞した。									

1. 現状把握の部（1）事務事業の目的と指標

① 手段（主な活動）				④活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移							
5年度実績 真岡まちづくりプロジェクト（3年目） 宇都宮大学地域デザイン科学部との共同研究事業としてワークショップの開催と、社会実験の実施 まちつく×（クロス）事業として、市民による企画提案、実行のサポート 空き店舗を活用したまちづくり拠点の整備（リノベーション） 6年度計画 真岡まちづくりプロジェクト（4年目） 宇都宮大学地域デザイン科学部との共同研究事業として、ワークショップの開催、社会実験の実施 まちつく×（クロス）事業として、市民による企画提案、実行のサポート まちづくり拠点を活用した社会実験				名称		単位	2 年度(実績)	3 年度(実績)	4 年度(実績)	5 年度(実績)	6 年度(見込)
				ア まちづくりプロジェクト 社会実験事業回数				9	12	50	50
				イ 主催者側 参画人数				58	112	503	500
				ウ							
				エ							
				オ							
② 対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等				⑤対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移							
市民				名称		単位	2 年度(実績)	3 年度(実績)	4 年度(実績)	5 年度(実績)	6 年度(見込)
				ア 真岡市民			78,874	78,592	77,635	77,578	76,972
				イ							
				ウ							
				エ							
				オ							
③ 意図（この事業によって、対象をどう変えるのか）				⑥成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移							
市民協働のまちづくりの推進 中心市街地の活性化				名称		単位	2 年度(実績)	3 年度(実績)	4 年度(実績)	5 年度(実績)	6 年度(見込)
				ア 来場者数				5,500	4,000	9,400	9,400
				イ							
				ウ							
				エ							
				オ							
② 総事業費の推移				単位	2 年度(実績)	3 年度(実績)	4 年度(実績)	5 年度(実績)	6 年度(見込)		
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	1,100	500	4,657	1,600		
			県支出金	千円	0	0	360	161	810		
			地方債	千円	0	0	0	0	0		
			その他	千円	0	2	538	5,795	3,524		
			一般財源	千円	0	1,110	606	413	0		
	事業費計（A）			千円	0	2,212	2,004	11,026	5,934		

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 市の政策体系に結び付き、社会環境や住民ニーズ等を考慮した上で目的は妥当か？	☒ 見直し余地はない ☐ 見直し余地がある （評価理由） 真岡市総合計画2020-2024と結びついている。
	②公共関与の妥当性 市が事業に関与する必要があるか？	☒ 見直し余地はない ☐ 見直し余地がある （評価理由） 官民の協働と協創（共創）によって中心市街地の活性化を図っており、そのうち官（市）が担うべき役割を担っているもので、市が関与することが妥当である。
	③対象と意図の妥当性 ・1枚目の②「対象」③「意図」は適切か？ ・対象を限定・追加する必要があるか？ ・意図を限定・追加する必要があるか？	☒ 対象・意図を見直す必要はない ☐ 対象を見直す必要がある ☐ 意図を見直す必要がある （評価理由） 官民連携、市民協働のまちづくりによって、関係人口の増加を目指すものであり、適切である。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるかどうか？ない場合の理由は適切か？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	☐ 向上余地はない ☒ 向上余地がある （評価理由） 民間の創意工夫を活かした提案によって、まちづくりを進めていく必要があることから、より多くの市民が関わることで、事業の多様性や、人材の育成を図る余地がある。
	⑤類似事業との統合・連携の可能性 ・類似事業はないか、統合や連携はできないか？	☐ 類似事業と統合・連携ができる（類似の事務事業名： ） ☐ 類似事業と統合・連携できない（類似の事務事業名： ） ☒ 類似事業はない （評価理由） 学生と地域の大人が協働し、中心市街地の活性化の提案を行い、社会実験として実行するプロジェクトであり、類似事業はない。
効率性評価	⑥事業費の削減余地 ・成果を下げずに実施主体の見直しによりコスト削減をできないか？ ・実施方法の適正化によりコスト削減をできないか？	☒ 削減余地がない ☐ 削減余地がある （評価理由） 官民連携による取り組みによって、事業費を抑制して実行している。

(1) 改革の方向性（改革案・実行計画） ☐ 廃止 ☒ 見直し（ ☐：目的妥当性 ☒：有効性 ☐：効率性） ☐ 統合 ☐ 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td style="border: 2px solid black;"></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td style="border: 2px solid black;"></td> <td style="border: 2px solid black;"></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持				低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上		○																			
	維持																					
	低下																					
(2) 課題、課題の克服の方向性 【課題】 ・まちづくり事業に、より多くの市民が関わりをもつこと ・事業の多様性を図ること ・人材育成を図ること																						

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 ☐ 記述説明不足（説明責任不充分） ☐ 評価内容が客観性を欠く ☒ 評価内容は客観的と言える		(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">成果</td> <td style="text-align: center;">向上</td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">維持</td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">/</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">低下</td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">/</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持			/	低下			/
					コスト																		
			削減	維持	増加																		
成果	向上		○																				
	維持			/																			
	低下			/																			
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ②有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ③効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり																							
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的絞込み ☐ 目的拡充 ☐ 事業統廃合 ☒ 事業のやり方改善 ☐ 予算削減 ☐ 予算増大 ☐ 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）	(4) その他 2次評価会議で指摘された事項																						